

粉体処理の事業領域拡大

日本アイリッヒが研究拠点

【名古屋】日本アイリッヒ（名古屋瑞穂区、内藤雅元社長）

は、名古屋市内に粉体処理技術の研究開発拠点「アイリッヒ・イノベーションセンター・ジャパン（EICJ）」を完成し、運用を開始した。主力とする産業用ミキサーなど粉粒体機器を設置し、電池や医薬、食品材料など高付加価値分野への対応力を高め、事業領域を拡大する。研究・分析機能を一体化した同拠点を軸に成長市場で競争力強化を図る。

名古屋瑞穂区に建設したEICJは、3階建てで、延べ床面積約1800平方メートルの規模。3日に開所式を行う。

粉体処理技術の研究

から試験、分析までを四つを柱に整備した。一体で行えるのが特徴。「テスト環境のイノベーション」。「新市場開拓」。「働きやすいオフィス環境」。「粉体処理技術の発信基地」の

や製造関連などのシーエルラボ、テスト機を備えてレンタル利用できるトライアルラボ、最新鋭の機器を使った分析を行うアナリシスラボを設置。シーエルラボには打錠機を備えるなど、造粒処理プロセス前後を含む工程試験を可能としている。シーエルラボは陽圧環境で外部からの汚染を防ぎ、シーエルラボは陰圧環境で粉体の外部流出を抑制。医薬品

や電池材料の開発要求に応える仕様とした。日本アイリッヒは全固体、半固体電池向け混練技術で優位性を持つとし、電池材料分野を重点領域の一つに位置付ける。医薬、食品分野でもクリーン環境での試験需要が増えており、受け入れを強化する。また、愛知県内の大学、研究機関を中心に研究連携を活性化し、新たな技術開発につなげる。



完成した研究開発拠点「アイリッヒ・イノベーションセンター・ジャパン」